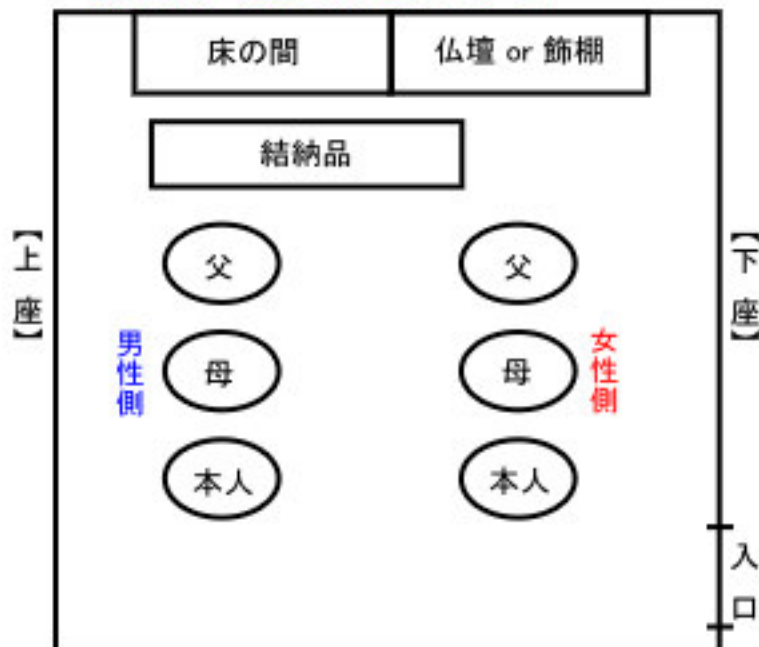


■仲人なし【A】

(東海エリア・北陸エリアに多いパターン)



【解説】

東海・北陸エリアでは家と家の結びつきを、やや重要視する傾向があり、親が上座に来るのが一般的です。ただし地域によって微妙に違う場合があります。

興味深い例として、岐阜の高山では結納式が終わった後上座と下座が入れ替わるというような地域もあります。

■仲人あり【A】

(東海エリア・北陸エリアに多いパターン)

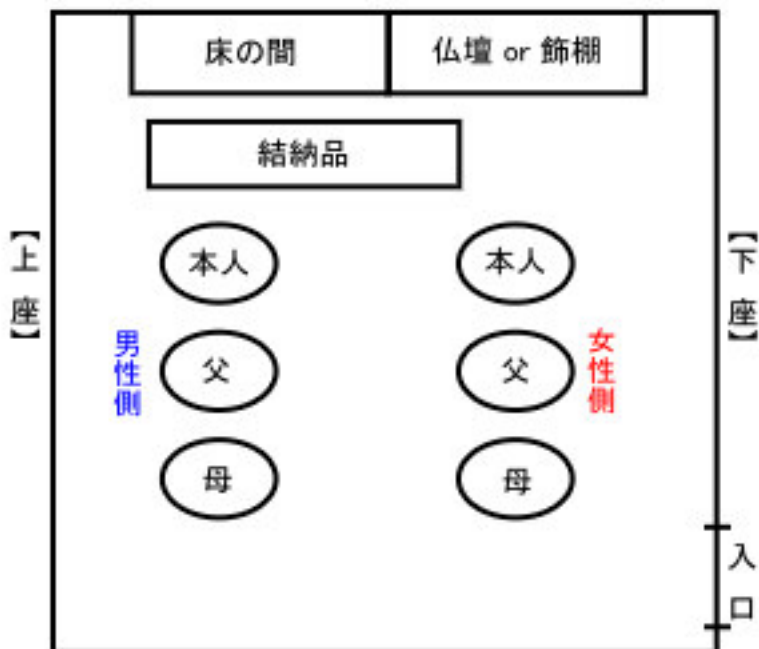


【解説】

東海・北陸エリアでは、結納の時の仲人様はあくまでも男性側の使者というスタンスで考えることが多いようで左記のような配置が多いと思います。ただし地域によって微妙に違う場合があります。

■仲人なし【B】

(関東・関西エリアに多いパターン)



【解説】

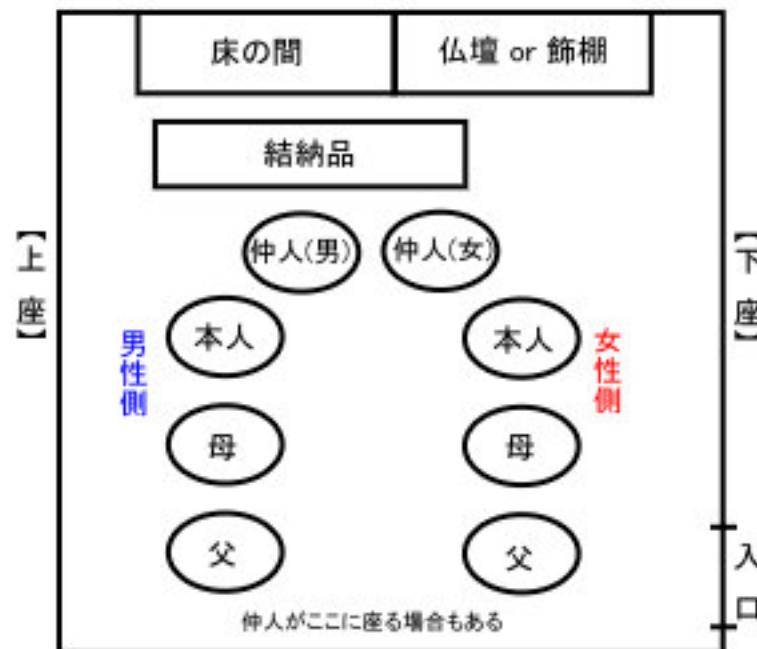
関東エリアでは個人と個人の結びつきをやや重要視する傾向があり、本人が上座に来るのが一般的です。

関西エリアでは個人と個人の結びつきと同時に家と家との結びつきも同等に重視する傾向があります。(目録の宛名が親→親になっているのが良い例)

一般的には本人は上座にくる場合が多いようですが、地域によって微妙に違う場合があります。

■仲人あり【B】

(関東・関西エリアに多いパターン)



【解説】

関東・関西エリアでは、仲人様はあくまでも中立の立場という意味で左記のような配置が多いようです。ただし地域によって微妙に違う場合があります。

床の間・結納品に背を向けるということを嫌う場合は、一番下座に来る場合もあります